

交付図書の訂正について

令和7年12月3日付けで入札公告を行った「磐越自動車道 上川地区道路詳細設計」に係る交付図書に一部誤りがあったため、別添のとおり訂正します。

なお、当社ホームページ掲載の交付図書についても、同日付で訂正したものに改めておりますので、再度、交付図書をご確認ください。

令和7年12月11日

契約責任者

東日本高速道路株式会社 新潟支社

支社長 佐久間 仁

【訂正内容】

- ・入札公告（官報）
- ・入札公告（説明書）
- ・02_特記仕様書（磐越自動車道 上川地区道路詳細設計）

※訂正箇所は、別添「正誤表」をご確認ください。

別 添

正 誤 表

記載内容を次のとおり訂正します。

■入札公告（官報）

対 象	訂正前	訂正後
5 手続等 (2)関係書類の取得期間 及び方法 ① 取得期間	入札公示日から 令和 7 年 12 月 18 日（木） まで	入札公示日から 令和 7 年 12 月 26 日（金） まで
5 手続等 (3)参加表明書の提出 期間並びに提出場所 及び方法 ① 提出期間	入札公示日から 令和 7 年 12 月 18 日（木） 16 時 00 分まで	入札公示日から 令和 7 年 12 月 26 日（金） 16 時 00 分まで
7 Summary (4)	Time-limit to express interests : 4:00 P.M. 18 December 2025	Time-limit to express interests : 4:00 P.M. 26 December 2025

■入札公告（説明書）

対 象		訂正前	訂正後
2-2	契約図書の配布期間	入札公告の日 から 令和 7 年 12 月 18 日 まで	入札公告の日 から 令和 7 年 12 月 26 日 まで
2-3	参加表明書の提出 期限	<p>【提出期限】</p> <p>入札公告の日 から 令和 7 年 12 月 18 日 16 時 00 分まで</p> <p>※共通入札公告 4-3-1 及び 4-3-5～4-3-11 に示す調達手続 に参加するための条件等を十分に確認のうえ提出すること。</p>	<p>【提出期限】</p> <p>入札公告の日 から 令和 7 年 12 月 26 日 16 時 00 分まで</p> <p>※共通入札公告 4-3-1 及び 4-3-5～4-3-11 に示す調達手続に参 加するための条件等を十分に確認のうえ提出すること。</p>

別 添

正 誤 表

■入札公告（説明書）

訂正前

業務への取り組み姿勢	次の基準で評価する。 <table><tr><th>評価基準</th><th>配点</th></tr><tr><td>業務理解度</td><td>業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点</td></tr><tr><td>実施手順</td><td>業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点</td></tr><tr><td>その他</td><td>有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点</td></tr></table> <p>評価方法は次の通りとする。 ①「業務への取り組み姿勢」に記載された内容と、その内容に対するヒアリングを行い、総合的に評価を行う。 ②次の審査基準により、評価者(3名)が評価項目毎に各社を相対的に評価する。 【配点が10点の場合】 10点(相対的に非常に優れている) 8点(相対的に優れている) 6点(普通) 0点(妥当でない) ③各評価者の評価の平均点が評価点となる。(評価点の算定値は小数第4位以下を切り捨てとする)</p>	評価基準	配点	業務理解度	業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点	実施手順	業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点	その他	有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点
評価基準	配点								
業務理解度	業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点								
実施手順	業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点								
その他	有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点								
総額	次の基準で評価する。 <table><tr><th>評価基準</th><th>配点</th></tr><tr><td>・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。</td><td>-</td></tr><tr><td>参考業務規模(税込)</td><td>130百万円</td></tr></table>	評価基準	配点	・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。	-	参考業務規模(税込)	130百万円		
評価基準	配点								
・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。	-								
参考業務規模(税込)	130百万円								
技術提案書に関するヒアリング	(1)ヒアリングでは、技術提案書に記載された次の事項について質疑応答を行う。 イ、配置予定管理技術者の業務経験について ロ、業務の取組姿勢について ハ、総額について ニ、参考見積書の内容について (2)ヒアリング時の追加資料は受理しない。 (3)ヒアリングは質疑応答を含め60分程度とする。								

130百万円

訂正後

業務への取り組み姿勢	次の基準で評価する。 <table><tr><th>評価基準</th><th>配点</th></tr><tr><td>業務理解度</td><td>業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点</td></tr><tr><td>実施手順</td><td>業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点</td></tr><tr><td>その他</td><td>有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点</td></tr></table> <p>評価方法は次の通りとする。 ①「業務への取り組み姿勢」に記載された内容と、その内容に対するヒアリングを行い、総合的に評価を行う。 ②次の審査基準により、評価者(3名)が評価項目毎に各社を相対的に評価する。 【配点が10点の場合】 10点(相対的に非常に優れている) 8点(相対的に優れている) 6点(普通) 0点(妥当でない) ③各評価者の評価の平均点が評価点となる。(評価点の算定値は小数第4位以下を切り捨てとする)</p>	評価基準	配点	業務理解度	業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点	実施手順	業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点	その他	有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点
評価基準	配点								
業務理解度	業務の目的、条件、内容の理解度が高い場合に優位に評価する。10点								
実施手順	業務実施手順を示す業務フローの妥当性が高い場合に優位に評価する。業務量の把握状況を示す工程計画の妥当性が高い場合に優位に評価する。30点								
その他	有益な代替案、重要事項の指摘がある場合に優位に評価する。20点								
総額	次の基準で評価する。 <table><tr><th>評価基準</th><th>配点</th></tr><tr><td>・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。</td><td>-</td></tr><tr><td>参考業務規模(税込)</td><td>191百万円</td></tr></table>	評価基準	配点	・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。	-	参考業務規模(税込)	191百万円		
評価基準	配点								
・代替案を含めて参考業務規模と大きく乖離した見積である場合は特定しない。 ・提案内容に対して見積が不適切な場合は特定しない。	-								
参考業務規模(税込)	191百万円								
技術提案書に関するヒアリング	(1)ヒアリングでは、技術提案書に記載された次の事項について質疑応答を行う。 イ、配置予定管理技術者の業務経験について ロ、業務の取組姿勢について ハ、総額について ニ、参考見積書の内容について (2)ヒアリング時の追加資料は受理しない。 (3)ヒアリングは質疑応答を含め60分程度とする。								

191百万円

1 3 0 百万円

1 9 1 百万円

■02 特記仕様書（磐越自動車道 上川地区道路詳細設計）P.9

訂正前	訂正後																												
<p>を参考にして、受発注者で実施内容について協議し決定する。 受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。</p> <table><tr><th>活用内容</th><th>活用内容の詳細</th></tr><tr><td>出来上がり全体イメージの確認</td><td>出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。</td></tr><tr><td>特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）</td><td>2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認</td></tr><tr><td>施工ステップの確認</td><td>→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。</td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">（参考）3次元モデル作成の目安</th></tr><tr><td>詳細度</td><td>2000～3000程度※1</td></tr><tr><td>属性情報</td><td>※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。</td></tr></table> <p>2-6-2 使用するソフトウェア 本業務では、3次元モデルの活用目的に応じてソフトウェアを準備する。3次元モデルの納品ファイル形式については、「BIM/CIM 取扱要領 1-7 データ連携に対応したソフトウェアの活用」表-4による。導入するソフトウェアの選定にあたっては、対象とする3次元モデルとその納品ファイル形式を適切に扱えることが前提となる。 また、発注者が本業務の成果の閲覧等に使用する予定のソフトは、AutoCAD Civil 3D、Autodesk InfraWorks及びAutodesk Navisworks（Autodesk社）である。</p> <p>2-6-3 BIM/CIM 実施計画書の作成 受注者はBIM/CIMの実施内容について協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、発注者へ提出する。「BIM/CIM 実施計画書」は「BIM/CIM 取扱要領 2-2 BIM/CIM 実施計画書の作成」に基づき作成する。 現況地形については、既往の測量結果を用いる。</p> <p>2-6-4 3次元モデルの作成 受注者はBIM/CIMの目的や実施内容を記載した「BIM/CIM 実施計画書」に基づき3次元モデル（3次元形状データ＋属性情報）を作成する。</p> <p>9</p>	活用内容	活用内容の詳細	出来上がり全体イメージの確認	出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。	特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）	2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認	施工ステップの確認	→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。	（参考）3次元モデル作成の目安		詳細度	2000～3000程度※1	属性情報	※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。	<p>を参考にして、受発注者で実施内容について協議し決定する。 受注者が希望する場合、発注者が示す活用内容以外の活用内容を提案することができる。</p> <table><tr><th>活用内容</th><th>活用内容の詳細</th></tr><tr><td>出来上がり全体イメージの確認</td><td>出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。</td></tr><tr><td>特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）</td><td>2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認</td></tr><tr><td>施工ステップの確認</td><td>→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。</td></tr></table> <table><tr><th colspan="2">（参考）3次元モデル作成の目安</th></tr><tr><td>詳細度</td><td>2000～3000程度※1</td></tr><tr><td>属性情報</td><td>※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。</td></tr></table> <p>2-6-2 使用するソフトウェア 本業務では、3次元モデルの活用目的に応じてソフトウェアを準備する。3次元モデルの納品ファイル形式については、「BIM/CIM 取扱要領 1-7 データ連携に対応したソフトウェアの活用」表-4による。導入するソフトウェアの選定にあたっては、対象とする3次元モデルとその納品ファイル形式を適切に扱えることが前提となる。 また、発注者が本業務の成果の閲覧等に使用する予定のソフトは、AutoCAD Civil 3D、Autodesk InfraWorks及びAutodesk Navisworks（Autodesk社）である。</p> <p>2-6-3 BIM/CIM 実施計画書の作成 受注者はBIM/CIMの実施内容について協議し決定した結果を「BIM/CIM 実施計画書」として整理し、発注者へ提出する。「BIM/CIM 実施計画書」は「BIM/CIM 取扱要領 2-2 BIM/CIM 実施計画書の作成」に基づき作成する。 3次元モデル作成面積は169.40万㎡とし、現況地形にフルで、現況の測量結果を用いる。</p> <p>2-6-4 3次元モデルの作成 受注者はBIM/CIMの目的や実施内容を記載し「BIM/CIM 実施計画書」に基づき3次元モデル（3次元形状データ＋属性情報）を作成する。</p> <p>3次元モデル作成面積は、169.40万㎡とし、 現況地形については、既往の測量結果を用いる。</p>	活用内容	活用内容の詳細	出来上がり全体イメージの確認	出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。	特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）	2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認	施工ステップの確認	→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。	（参考）3次元モデル作成の目安		詳細度	2000～3000程度※1	属性情報	※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。
活用内容	活用内容の詳細																												
出来上がり全体イメージの確認	出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。																												
特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）	2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認																												
施工ステップの確認	→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。																												
（参考）3次元モデル作成の目安																													
詳細度	2000～3000程度※1																												
属性情報	※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。																												
活用内容	活用内容の詳細																												
出来上がり全体イメージの確認	出来あがりの完成形状を3次元モデルで視覚化する。 ・受発注者間協議の省力化を図る。 ・地元説明および現場案内等での工事説明の理解促進を図る。 ・隣接工事間の円滑な協議および調整に役立てる。 本業務では、R9年度頃の工事用道路等の用地協議において、使用することを想定している。																												
特定部の確認や情報伝達 （2次元図面の確認補助）	2次元では表現が難しい特定部や3次元の位置情報や視覚化により課題を効率的に後段階に伝達できる箇所は、3次元モデルにより関係者の理解促進や2次元図面の精度向上を図る。 本業務では、道路本体の土工部と橋梁部の隣接範囲の施工、及び車線シフト部の施工にあたり支障となる障害物を確認する。 施工ステップの確認																												
施工ステップの確認	→道の施工工程のステップごとの3次元モデルで施工可能かどうかを確認する。 本業務では、土工部と橋梁部の隣接範囲及び車線シフト部における施工ステップを確認する。																												
（参考）3次元モデル作成の目安																													
詳細度	2000～3000程度※1																												
属性情報	※1 構造形式がわかるモデルへ主構造の形状がわかるモデル 3次元形状データが何を表すかを識別する情報をオブジェクトごとに属性情報として設定する（BIM/CIM 取扱要領「附属資料2 オブジェクト分類」を参照）。																												